



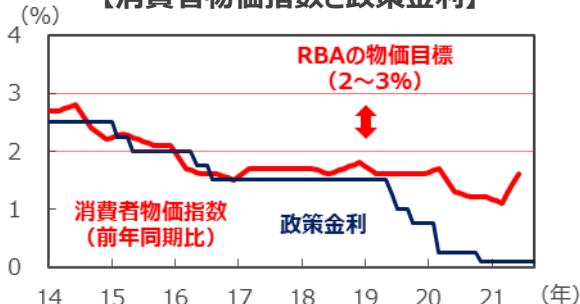
今日のトピック 豪中銀はテーパリングを予定通り実施
金融緩和からの脱却姿勢が豪ドルを下支え

ポイント1

国債買入を予定通り減額
政策金利は据え置き

- 豪州準備銀行（RBA）は9月7日の金融政策決定会合で、翌日物金利と3年物国債利回りの目標を0.1%に維持しました。
- 国債買入れプログラムは、これまでの方針通り、現行の週50億豪ドルから40億豪ドルへの減額が決定されました。新型コロナウイルスのデルタ型の感染拡大を受け、資産買入れの減額が見直されるとの見方もありました。RBAは金融緩和から徐々に脱却しています。

【消費者物価指数と政策金利】



(注) 消費者物価指数は2014年1-3月期～2021年4-6月期。変動の大きい項目を除外したトリム平均値。
政策金利は2014年1月～2021年9月。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2

テーパリングのペースは緩やか
金利も2024年まで据え置き継続へ

- 一方、週40億豪ドルの買入れを行う期間は「少なくとも来年2月中旬まで」としており、テーパリングのペースは非常に緩やかに設定されています。
- また、声明文では「実際のインフレ率が2～3%の目標範囲内に持続的に収まるまで翌日物金利を引き上げない」、「2024年までにこうした状況になるとは予想していない」と、政策金利据え置きを続ける方針を改めて示しており、早急な引き締めへの懸念をけん制する内容となっています。

【豪ドル円レートと豪日金利差】



(注) データは2019年1月1日～2021年9月7日。

豪日金利差は3年国債利回りの差。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開

金融緩和からの脱却姿勢が豪ドルを下支え

- 今回の決定を受けて9月7日の為替市場で豪ドルは米ドル、円に対して一時は上昇したものの、その後下落に転じました。RBAによる金融緩和からの脱却姿勢が豪ドルを下支えする一方、市場はテーパリングのペースが緩やかになる点にも反応しています。
- デルタ型の感染拡大により都市部でロックダウンが繰り返されていますが、ワクチン接種が進展するとともにこうした行動制限も徐々に緩やかになると想定されます。金融政策の先行きにも大きく影響するため、今後も労働市場や物価に加え、感染動向や経済活動再開ペースなどにも注目が集まります。

ここも
チェック!

2021年8月18日 インド株は最高値を更新、景気回復期待が高まる

2021年8月17日 中国経済はやや減速も安定した成長

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。